

土地を借りるに当たって 苦労は？

大津 龍太郎 さん(仁良)



保坂さん…最初はなかなか借りられませんでした。そのうち周りの地主さんからも借りられるようになって。今は1町歩の面積で作っています。

大津さん…自分はあまり苦勞せず空いている土地があると周りの人が教えてくれました。1年に1町歩ずつ増えました。

林さん…借りている所と購入した所、田と畑合わせて4町歩近くありますが、重機が入れない草が酷いところは、明渠で水抜きして時間をかけて整備しています。

安定して収入を 確保するための方策は？

大津さん…白菜や生育期間が短い物を植えるなど、いろいろな方法で収入が常にあるように調整しています。

林さん…基本的にはコストをかけたくないため、一回植えるだけで後は収穫できることを後々現実化したと考えています。米は直まきで作りたい。成功すれば、約30%経費の削減ができると聞いています。

保坂さん…「自分の家庭の野菜自給率を100%にしたい」がはじまりですが、それを直接消費者に届けられるのが一番いいので、中間マージンをいかに省くかに力を入れています。



林 繁行 さん(山倉)

販売先の確保方法は？

保坂さん…自宅で直販の他に、野菜は新鮮なうちに届けたいと思っているので、「和菜志」のサイトでのインターネット販売をメインに毎週9品目くらいを箱詰めですべて送っています。農薬も化学肥料も全く使っていないので、無農薬を優先するお客さんが買ってくれています。お客さんから「美味しかった」とか「ありがと」って言葉を貰えるのは、どんな仕事でも大切だと思うので、売り上げだけでなくお客さんの笑顔が見られることがいいです。

大津さん…出荷先が充実していて、色々な選択肢があるのが助かりました。和郷園、道の駅、房総食料センター、農総研、色々な卸組合など、作ったものが全部出荷できるのが良かった。

保坂 和仁 さん(沢)



農業移住者 to ぎかい

農業を生業にして、自然と共に生きる

近年、都市部から地方への移住が注目を集めています。その目的は人それぞれですが、中には農業をするために移住を考える人も少なくありません。

今回の議会広報特別委員会では香取市に移住して農業を始めた3名の方に、その魅力と課題を伺いました。

移住のきっかけは？

大津龍太郎さん(仁良)(以下、大津さん)…以前住んでいた横浜では、人に気を使う仕事をしていました。もう少し自由に自然の中でのびのびできたらと思い、農業をはじめました。雪が降らないことと、横浜からの距離が丁度いいことで香取市への移住を決めました。最初の3年は、色々な農家さんの所で野菜の作り方を教わって、その後自立して4年。6町歩の面積を6人で主にネギを作っています。

林繁行さん(山倉)(以下、林さん)…1年前にさいたま市から移住しました。コインランドリーを経営していました。移が、次は農業をやってみたいと思い移

住を考えました。令和6年は、神崎町で修業をさせてもらいましたが、独立したい気持ちが強くなり香取市の空家バンクを利用して家を購入しました。農業はまだ始めて1年経ちませんが、主に米と枝豆を作っています。

保坂和仁さん(沢)(以下、保坂さん)…山梨県の甲府市生まれです。大学卒業後、東京でゼネコンでの就職・飲食店経営と20年程生活。40歳の時に子どもが生まれたのを機に移住を考え、45歳で香取市に来て8年になります。

今は露地野菜を中心に有機野菜を作って、ネット販売やコンパスのマルシェでも販売しています。